
地域の取り組み・課題集

～ きずなづくりトークのまとめ ～

佐野小学校区編

—改訂版—



平成 27 年 3 月

三島市

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）

△：H23.07.06 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」

「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」

▲：H23.10.25 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」

「2 ごみ問題と美しい地域づくり」

○：H24.05.31 テーマ「みんなでふれあい創出」

●：H24.10.18 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」

◇：H25.05.24 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

◆：H25.11.22 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

□：H26.05.29 テーマ「防災訓練」「地域の連携」

■：H26.10.14 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。

テーマ「①地域にいる人材を発掘し活用するには？&消防団を地域で支えていくにはどうしたらいいか考えよう！」（P6 掲載）

「②佐野地区・見晴台地区の交流がもっと深まる方法を考えよう！」（P7 掲載）

◎：市の意見・回答

⇒：課題解決に向けた取り組み事例

（※担い手略称 自：自治(町)内会、民：民生委員、消：消防団、子：子ども会、婦：婦人会、老：老人会）

	課題	担い手
防災訓練	①訓練内容	自
	<ul style="list-style-type: none"> ●訓練の防災機器等を充実させたい。 ◇有事の際はまずゴミステーションに集まるなど、小さなことから徹底してやるのが大事。急こう配地なので足腰の悪い人のための工夫が必要。(見晴台) □災害発生時、まず組単位で決められた場所に集まる体制が必要。数名集まれば、お年寄りの安否確認や自治会本部との連絡などが可能になる。 ◆今後は保健委員も訓練に参加してほしい。 ◎保健委員会議で保健委員の役割を明確にし、防災訓練等で幅広く活動してほしい。 ●今までの災害で被害を受けなかったため、住民の訓練に対する意識が低い。東北の震災を機に、住民の意識を高めていきたい。(佐野) ●消火器だけでなく消火栓の場所の確認も行う必要がある。 ◎防災意識の低い住民には、市職員の講義などで意識を高めると良い。 ◎佐野は建物が古く倒壊の危険がある。ディグの訓練を行うとよい。 ◇ディグを参考に住民に新たに説明していきたい。(佐野) ◇佐野、見晴台、芙蓉台は隣接している。協働・協力体制を敷いていきたい。 ◆見晴台の訓練(特に集合後の活動内容)を視察し、参考にしたい。 ⇒◆見晴台の訓練を佐野自治会が視察。 ⇒◆12月1日 初めての本格的な防災訓練を計画。(佐野) ◆訓練を実施して課題が出てきたら、次どうするか考えていく。(佐野) □地震災害や異常気象による水害を想定した訓練など、自治会と消防団とが連絡体制の確認から協力して活動していければいいと思う。 	<p>市</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>自</p> <p>消防団</p>

	課題	担い手
② 災害時の避難・救助	<ul style="list-style-type: none"> ●平日昼間は、会社勤めの世代が地区にいないことが問題。 ●職員が学校にいない時間に災害が発生した場合、地域に支えてもらわなくてはならない。 ●避難場所では中学生の力を借りたい。 ◆保護者が帰宅困難者になることも有り得る。安心して子どもを預けてほしい。(伊豆佐野保育園) ●小中学校、両方に子どもを迎えに行く場合時間がかかる。実際に引き取ることができるか不安。 <p>◎災害時、街場の運転は危険。車を使用しない避難を考えるべき。</p>	<p>校区全体</p> <p>中</p>
③ 災害時の情報伝達	<p>◎避難所(小学校)の MC 無線で町内の被害状況を市に報告してほしい。</p> <p>◎佐野は中心市街地から遠く情報が届きにくいこと、けが人が出たときの対応などが課題。</p> <p>◎見晴台は学校から遠いこと、家族間の連絡をどうとるかが課題。</p> <p>◇衛星電話など、市本部との連絡手段が必要。(見晴台)</p> <p>◎衛星電話は補助金の対象になるので、各自治会で申請してほしい。</p> <p>◆組員に正しい情報を伝える方法が課題。(佐野)</p> <p>◆連絡に無線を使用する場合、災害本部をどこに設置するか話し合う必要がある。(消防団)</p> <p>◎災害本部の設置、連絡・情報収集、その情報に基づいた行動が大事。無線運用は団本部に確認してほしい。</p>	<p>自・消・市</p>
④ 要援護者の把握・支援	<p>△○支援については市と地域の自治会が連携して行うべき。</p> <p>○地域支援包括センターをもっとPR すべき。</p> <p>◇母子家庭や知的障害者なども網羅して欲しい。</p> <p>◎昼間、地域にいる人達による安否確認・支援体制が必要。</p> <p>◇□地図上で要介護の家に印をつけておくのはいかがでしょうか。要援護者マップができて、搬送ルートが確立する。</p> <p>◇町内会と民生委員で連携してほしい。</p> <p>◇「向こう三軒両隣」。高齢者の事を気にかけてくれるとありがたい。</p> <p>◆日中の災害時、地域にいそうな人達との共通の情報が必要。</p> <p>◆各役員は家族の安否確認を第一に。その後、救援に向かうということを要援護者にも理解してほしい。</p> <p>◆防災委員と要援護者のいる地区を確認し、災害時の班行動を話し合いたい。</p> <p>□要援護者の具体的な救助方法と救助先は課題が多くある。(佐野小の車椅子対応のトイレの有無、障がい者のための設備の有無など)</p> <p>□施設側(救助先)と救助される側(要援護者)の情報をセットで整理しておく。</p> <p>□本人の意思と、客観的な状況を考えた場合の体制づくりなど、日常の情報をすり合わせていく作業が必要。組単位の集まりなどで情報収集していく。</p> <p>□見晴台は災害時、陸の孤島になりかねない。1,000 世帯あるが、ほとんどの方が現役。日中に災害が発生した場合、残った高齢者の避難方法が心配。</p>	<p>自・市</p> <p>自・民</p> <p>自・民</p> <p>校区全体</p> <p>自</p>

	課題	担い手
<p>⑤ 防災体制の整備・強化</p>	<p>○災害時、中学生の力を借りたい。(見晴台)</p> <p>◆町民に、防災や地震対策の意識付けをしていきたい。</p> <p>□今年から専門の防災委員長・副委員長という体制を作って、少なくとも3年以上やってもらうことにした。連絡体制、要援護者の救助方法など、全てが把握できるようになるのではないかと。(佐野)</p> <p>□第5分団を中心に佐野と見晴台が交流して、お互いに知識を得ることが重要。</p> <p>□各町内で、少なくとも数名は防災士を養成することが重要だと思う。</p> <p>□多くの方が防災士になれば、誰かが不在でも誰かがフォローできる。防災士講座をどうPRするか難しいが、多くの方に受講してほしい。</p> <p>□市で防災士の補助金を出す、やめている防災士を復活させるのも一つの方法</p> <p>◎県の防災士講座を受ける場合、市で補助金が出る。市でもより簡便な防災講座を開いているので、参加を募ってほしい。</p> <p>□防災訓練の指導経験がある方を地域で探し、知識を活用できるといいと思う。 消防・自衛隊・警察では持っているものが違う。そういうことも色々と分かる。 →【■①-1 テーマ別会議(P6)に発展】</p> <p>◆一番大事なことは祭りや会議等を通じた人と人とのつながり。</p> <p>◆PTAが子どもを持つ世帯と地域の接着剤になれるといい。</p> <p>⇒◇小学生対象のAED訓練参加者を校長に依頼し募集。</p> <p>⇒◆PTA・消防団・自治会が協力し、防災キャンプを実施。</p> <p>□今年も夏に「体育館宿泊体験」を開催する。これからも継続していきたい。</p> <p>□自分の命は自分で守ることからスタートし、高学年の子は低学年の子をどうするか考えることなどが、のちのち社会で役立つと思う。</p> <p>□伊豆佐野保育園では6/24に佐野小で引き取り訓練を行う。保育園が使用できない想定で、園児を小学校に連れていく。初めての試みになる。</p> <p>◎三島市消防本部に2市1町(三島市、裾野市、長泉町)で別途通信指令本部を作っていこうとしている。</p> <p>◎三島ゴルフ、湯郷みしまと防災協定を結んだので、孤立した場合使用できるようになった。医療等は各自備蓄してほしい。</p>	<p>中 自</p> <p>自</p> <p>市</p> <p>各団体</p> <p>PTA 自・小 各団体</p> <p>保・小</p>
<p>⑥ 消防団員の不足</p>	<p>●新興住宅地でも団員の勧誘を行いたい。若い団員が幼少時代の友人を勧誘するなど、友人つながりでの勧誘を行っている。</p> <p>□第5分団は定員割れの状況。このままでは休団の可能性もある。まず団員確保を優先したい。協力をお願いしたい。 →【■①-2 テーマ別会議(P6)に発展】</p> <p>□消防団が困っているという情報を誰かに伝える場や機会があると、みんなできうにか協力しようという話になるのでは。</p> <p>□消防団には、防災訓練やどんど焼にも来てもらっている。その場を使って、消防団の危機を住民に伝えるといいのではないかと。</p> <p>□消防団をPRするために、校区祭や祭りなど、子どもと若い親が集まっている中で、AED講習や簡単な訓練の見せ場を作るといい。</p>	<p>消</p> <p>各団体</p>

	課題	担い手
地域の連携	<p>①地域のきずなづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●他地域からの寄せ集めのような集団で、近所付き合いをしたくない人も多いのが課題。(見晴台) ○若い世代も自治会活動に参加するように工夫が必要。 ●中学生を集めて力を借りたい。小・中学生が集まる行事をしたい。 ●学校や自治会とつながりがないと、防犯対策などの協力が得られない。子どもを通じ、地域と連携していきたい。(佐野小 PTA) ⇒●北上中学校区の地域連絡会を設立。きずなづくりに活かしたい。 ⇒●□佐野と見晴台は別組織として行動していたが、まとまってきた。 ●今後も佐野と見晴台と一緒に地域行事を行っていきたい。 □佐野と見晴台は離れている。今後、子どもや老人が一緒になる機会や、祭りで行き来するなど、お互いに交流を仕掛けていきたい。 →【■②テーマ別会議(P7)に発展】 ○行方不明者が出た時対応に苦労したので、マニュアルを作って自治会長に配布しておきたい。 ⇒◇◆見晴台には「やじうまクラブ」があり、挨拶運動や高齢者の見守り活動を実施。 	<p>自 小・中 自・PTA 校区全体 やじうまクラブ</p>
	<p>②子ども会・老人会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども会の数が減少。自治会が子ども会を守っていくべき。 ●子どもが多い地区なので、子ども会とのつながりを持つことで親とも連携していきたい。(体育振興会) ○子ども会と老人会と一緒に活動できるようにしていきたい。 ○老人会を復活させ、今ある婦人会と協力して花の世話をするような体制を作りたい。(佐野) ○定年後の男性も社会に出る場があれば良いと思う。 □自治会開催の子どもの農園体験などの活動が、子ども会役員だけではなく、もっとたくさんの方に広がり、みんなで楽しめれば良いと思う。 	<p>自・子 体育振興会 老・子 老・婦</p>
	<p>③スポーツを通じた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ活動を体育振興会の力で盛り上げてほしい。 ○防災訓練と地域運動会を同じ日に開催すればいいのでは。 ○校区祭の景品を買うための交付金は減少。市や自治会からの補助をお願いしたい。 ○数年前から春・秋の遠足を始めたが、PR 不足。広報活動が必要。 ●体育行事で活躍している人を防災にも活かしたい。(佐野) ●課題は地域のつながりをどうやって広げていくか。大きなイベントを開催し、自治会と連携するよう話していく必要がある。 ●遠足や運動会など住民が参加できるような行事を考えたい。 	<p>体育振興会 自</p>
	<p>④花・環境美化</p> <ul style="list-style-type: none"> ブルーベリーを植える活動を実施。上手くいっておらず、補助金も打ち切られてしまったが、活動を続けていきたい。 ○バス停あたりに花を置き、桜の木を植えたい。(佐野) ○環境問題やリサイクルなど、小・中学生の意見をどんどん取り入れていきたい。(環境美化推進委員) 	

■H26. 10. 14 テーマ①「地域にいる人材を発掘し活用するには？ & 消防団を地域で支えていくにはどうしたらいいか考えよう！」

●地域の防災体制を強化していくために「地域に埋もれている人材の発掘と活用方法」、また「地域で消防団を支えていくための具体的方策」について意見を出し合いました。

(テーマ①班：参加人数 6 人)

★防災ではどんな人材が必要か？

- ・平日昼間動ける人。退職者など
- ・地域内の指導者になれる人
- ・オールラウンドにできる訓練された人

例えば・・・

- ・救助、防災の専門家（防災士等）
- ・自衛隊退職者（技能を持っている）
- ・大学、高校の先生（歴史、気象の知識）
- ・会社で防災関係を担当された方

地域にとって消防団の存在とは？

- ・地域の安心感
- ・災害時の初動は消防団
- ・消防団が第一

★人材の発掘 どのように人材を見つけるか？ 

- ・指導者になる人材の調査
- ・消防団に入っている方の同級生等をあたる（上・下でも）
- ・自衛隊を退職された方のピックアップを協力要請
- ・地域防災から発掘。率先して動ける人材の青田刈り

★人材の活用 地域で防災講習を行えるようにしたい！

- ・地域主催の講習会ができるように、地域の指導者を養成。
- ・防災講習を地域で行う。（部門別募集）
⇒忙しい人が多いので、受けやすい講座（コース設定）が必要。部門別にするなど細分化。
- ・町内の役員だけでも救助方法を教えてほしい。

★人材の養成 必要となる技能を整理しよう！ 

- ・人命救助（心肺蘇生法）
⇒体育振興会ではイベント時の事故に備え受講（約 20 人）
- ・色々な立場の方が、各々できる事がある。それを明確にする。
- ・こういった時にどんな技能が必要か整理する！
⇒具体的にリストアップしよう。（医療・建築・介護・マニュアル作成等）
- ・オールラウンドの人を集めるのは困難
⇒まずは分担しながら（部門別）、徐々に意識・技能を上げる。
- ・防災士有資格者を増やす。

<地域で支消防団をえていくためにやっていこう！> 

■消防団を皆でフォローする

- ・消防団をかわいがる
- ・来なくなった団員の話しを聞く。（理由をさぐる）
- ・現役団員だけでなく、OBを頼ってもいい（OBは相談役、仲介役になれる）
- ・体育振興会が協力できることはないか？何が必要か知りたい。⇒話し合える場があるとよい。
- ・自治会に消防団担当役員を設け、いろいろと意見を求める⇒役員会で検討。
- ・消防分団員を励ます会等の企画をする
- ・消防団を中心とした協議会を開催する。

■団員の勧誘方法の工夫

- ・住民の前で活躍できる場を作り、その際常に団員募集を行う。
- ・まずは「登録だけ」でもから。
- ・魅力、楽しさをアピールする。
- ・募集を年 4 回位、市から行ってほしい。

■消防団員をヒーローに！

- ・お披露目、見せ場を用意
- ・消防で行う大会の内容を佐野地区、見晴台地区住民に見せる場をつくる。（子どもの頃より憧れを持てるように）
- ・校区祭（運動会）での日ごろの技術を紹介。
- ・自治会、三島市からのお礼、感謝状
- ・褒める、感謝

■消防団員にメリットを与える

- ・お金、手当の増額
- ・優遇措置（例：公園掃除は免除、自治会役員をやらなくてもよい等）
- ・地区の役員待遇。役員扱いにする。
- ・表彰制度を増やす。
- ・人脈が広がる。

■その他（活動・組織体制について考える）

- ・年齢制限をやめる。
- ・活動時間や任期を短く。

(テーマ②班：参加人数7人)

■H26. 10. 14 テーマ②「佐野地区・見晴台地区の交流がもっと深まる方法を考えよう！」

●佐野と見晴台の交流を深めるため、現在の問題点や協力したいことなどについて、意見を出し合いました。

★交流の問題点は？

□ケーションが離れている
⇒なかなか交流できない
子ども同士の交流も難しい

★今ある交流は？

防災の協力

- ・有事の際、見晴台は佐野からお米の提供を受ける。たいへんありがたい。
- ・有事の際、小学校の待機児童が問題
⇒現在、佐野で面倒をみる検討中

通学路を安全にするための協力

- ・見晴台から通学路に危険箇所があるが、佐野で勘察し、登校時は農耕車を控えてくれている

お祭りでの交流

- ・お祭りは佐野と見晴台で交流している

自治会どうしの交流は、少しずつできている

■活動の拡大

- ・お祭りを拡大していくといいのでは？
- ・子ども会＝父兄の活動⇒子ども会の活動を広げ交流を深めては？

★佐野と見晴台で困っていること、協力したいことは？

●佐野

防災意識の向上

年間を通して交流行事あり
昔からきずなづくり定着

- ・自然災害発生の危険地域が多い。
- 住民の危機管理意識を高めるには？

●見晴台

災害対策

- ・有事の食料・飲料水の補助が必要
- ・市の協力を得て、湯郷みしま温泉、三島プリンスと一次避難所としての協定を結んだ⇒距離的な問題はある程度解消

通学路の危険

- ・見晴台からだ、登校時非常に危ない場所(暗い林など)がある／車の通勤マナーも悪い
- ・朝、遅刻者は1人で歩いているので心配。低学年の子は特に危ないので対策が必要
- ・集団登校で、毎朝親が1人必ず同行している
- ・下校時はスクールバスあり(市の補助あり)
- ・町内で朝の通学時間帯は通行しないよう呼びかけている
⇒もっと伝えていく
- ・見晴台の子ども達のことだけで、佐野まで目が届かない

行事への参加率が低い

- ・地域活動(PTA・自治会・子ども会)の参加率が低い
(例：球技大会1学年10人程度の参加)

子ども会の行事が異なる

- ・同じ小学校でも子ども会の行事が異なる(例：見晴台では子ども会がどんど焼きをするが、佐野では地域が行う)
- ・個人情報等で佐野の友達の住所がわからず、交流しにくい

■防災の協力体制づくり

- ・境川の整備(大雨時氾濫の危険あり／台風時、学校の前が濁流。中村橋も危険。葦なども多い)
- ・佐野は地元として、境川などの危険箇所を視察し、行政に浚渫の要望を提出
- ・佐野は毎年ボランティアで川を整備(草刈りなど)
- ・2地区で協力して要請を
- ・見晴台から佐野に作業の手伝いに行くなどして連携していく

■通学路を安全に

- ・通学路の危険⇒自治会へ声をかけてくれれば応援する
- ・保護者も責任を持つ(共働きは免除)
- ・一線を退いた高齢の方が多くいる⇒活躍の場を。

■交流者の拡大

- ・行事への参加者が少ない⇒その団体でどうにかしようとせず、地域に相談してつながりを広げ参加者を増やす
(地域から老人会などへの連絡もできる)
- ・若い人から積極的に相談してほしい
- ・もっと地域へPR・地道に一步步進めていく

■地域包括支援センターの活用

- ・高齢者・弱者との係わり⇒出かける場所づくりが大事。
- ・お年寄りのことなどで相談があれば気軽に声をかけてほしい

2地区の方が集まって情報交換をし、お互いに協力を求めていくことが大事

補足資料

きずなづくりトークの意見まとめ

これまでの「きずなづくりトーク」で皆さんから出していただいた地域の現況・課題を整理しました。

※平成 23～26 年度 佐野小学校区きずなづくりトーク参加団体一覧

自治（町内）会	保育園・小学校・子ども会
佐野自治会 見晴台自治会	伊豆佐野保育園 佐野小学校 佐野小学校 P T A 佐野見晴台子ども会 佐野子ども会
各種団体	スポーツ関係
環境美化推進委員会 民生委員児童委員協議会 保健委員会 消防団第 5 分団 保護司会 J A 女性部佐野支部 北上女性学級 地域包括支援センター 交通安全母の会	スポーツ推進委員会 佐野小学校区体育振興会 体育指導員会

（平成 2 3 年度は「地域づくり市民会議」の名称で開催しています）

凡例（各意見に印をつけて、いつ出された意見かわかるようにしています）
 △：H23.07.06 テーマ「1 地域の防災力向上と被災時の対応」
 「2 高齢者から子どもまで多世代の交流による活性化」
 ▲：H23.10.25 テーマ「1 地域の防災力向上と絆づくり～前会の議論を受けて～」
 「2 ごみ問題と美しい地域づくり」
 ○：H24.05.31 テーマ「みんなでふれあい創出」
 ●：H24.10.18 テーマ「地域の防災力～みんなで何ができるか考えよう～」
 ◇：H25.05.24 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」
 ◆：H25.11.22 テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」
 □：H26.05.29 テーマ「防災訓練」「地域の連携」
 ■：H26.10.14 過去の意見等を参考に関心の高いテーマに絞り、テーマ別のグループ会議を行いました。
 テーマ「①地域にいる人材を発掘し活用するには？&消防団を地域で支えていくにはどう
 したらいいか考えよう」（P6 掲載）
 「②佐野地区・見晴台地区の交流がもっと深まる方法を考えよう！」（P7 掲載）
 ◎：市の意見・回答

（※担い手略称 体振会：体育振興会、環美推員：環境美化推進員）

現況	課題	担い手	結果・実績
1. 防災訓練			
①訓練内容			
<p>●年 6 回、放水や炊き出しなどの防災訓練を実施。リタイアした人、元気な人で定期的に可搬ポンプの放水訓練を実施。（見晴台）</p> <p>◇まず役員会・組長会に周知を徹底し、回覧で日時を周知。（見晴台）</p> <p>●避難完了の札を玄関先に下げてもらい、掲出の無い住宅から確認。訓練に出られない人も掲げてもらい、訓練の都度、組長が集計する。（見晴台）</p> <p>◇組単位でゴミステーションに集合し、出欠確認後、公園まで組長が引率する等、色々な試みを実施。（見晴台）</p> <p>□組単位の活動を行なっているが、なかなか組でまとまらない。</p> <p>◆訓練内容は画一的にせず、毎回異なる内容にしている。（見晴台）</p> <p>◆保健委員になったのが今年始めてで、災害時、保健委員としてどう役に立ったらいいのかわからない。</p> <p>●今までの災害で被害を受けなかったため、住民の訓練に対する意識が低い。（佐野）</p> <p>●地理的に離れている為、消防が来るのも遅くなる。対策として、消火器の場所の確認、訓練をした。（佐野）</p> <p>●消防団が統制されていることは安心だが、頼りすぎず小さな単位でもしっかり訓練しないといけない。</p>	<p>●訓練の装備等を充実させたい。</p> <p>◇佐野、見晴台、芙蓉台は隣接しているので、協働・協力体制を敷いていきたい。</p> <p>◇地域性は異なるが、見晴台の防災訓練を見学し参考にしてほしい。</p> <p>◇有事の際は、まずゴミステーションに集まる。小さなことから徹底してやるのが大事。</p> <p>◇急こう配地で足腰の悪い人はすぐ来られない為、今後工夫が必要。（見晴台）</p> <p>□災害発生時、まず組単位で決められた場所に集まる体制が必要。数名集まれば、お年寄りの安否確認や自治会本部との連絡などが可能になる。</p> <p>◆今後は保健委員も訓練に参加してほしい。</p> <p>◎保健委員会議で保健委員の役割を明確にし、防災訓練等幅広く活動してほしい。</p> <p>●東北の震災を機に、意識を高めていきたい。</p> <p>◎防災意識の低い住民には、市の職員が講義をして意識を高めた方がよい。</p> <p>●消火栓の確認も行う必要がある。</p> <p>◎佐野は建物が古く倒壊が考えられる。ディグを使った訓練を行ってほしい。</p> <p>◇防災訓練はただ型どおりで意味が無いので、ディグを参考に住民に新たに説明していきたい。</p>	<p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>市保健委員</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p>	<p>⇒◆佐野から訓練見学有り。</p>

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇今年新しい防災訓練の方法を取り入れる。組単位の小避難所を10か所以上作り、組の代表を決め、どこに集まったら良いかを決めた。(佐野)</p> <p>◆12月1日に防災訓練実施予定。本格的な防災訓練は初めてで、皆、防災に対する意識が低い。(佐野)</p>	<p>◆見晴台の訓練(特に集合後の活動内容)を視察し、参考にしたい。</p> <p>◆訓練は実施してみて課題が出てきたときに、次どうするか考えていく。</p> <p>□地震災害や異常気象による水害を想定した訓練など、自治会と消防団とが連絡体制の確認から協力して活動していければいいと思う。</p>	<p>自治会</p>	<p>⇒◆12月1日防災訓練を計画。(初めての本格的訓練)</p>
②災害時の避難・救助方法			
<p>●見晴台は道路が心配である。市から援助がくるまでは、ユニボや人力車を持っている方をお願いする。(見晴台)</p> <p>●東北の震災で、避難場所における中学生の活躍が話題になった。</p> <p>●職員39名のうち、徒歩30分圏内に住んでいるのは3名。(佐野小)</p> <p>●◆地震がきたら、保護者が引き取りに来るまで児童は学校で預かる。当日中に来られない場合には職員が学校に残り対応する。(佐野小)</p> <p>●年1回、参観会の後に引き取り訓練を行っている。(佐野小PTA)</p> <p>◆子ども達が在園中に災害発生した場合、給食室や和室が有り、布団も持参しているので、保護者が迎えにくるまで職員が待機して生活する。水、乾パン、アルファ米も備蓄。(伊豆佐野保育園)</p> <p>●災害についての話し合いはされていない。学校の防災体制については把握している。(子ども会)</p> <p>◇東日本大震災の時は、子どもは学童にいて学校でしっかり対処してもらえた。(子ども会)</p> <p>○佐野小に放課後児童教室があるが、防災訓練を行ったときは待機児童が45人いたので、教室が狭くて窮屈そうだった。</p>	<p>●平日の昼間は、会社勤めの世代が地区にいないことが問題。(見晴台)</p> <p>●避難所では中学生の力を借りたい。</p> <p>●職員が学校にいない時間に災害が発生した場合、地域に支えてもらわなくてはならない。</p> <p>◆保護者が帰宅困難者になることも有り得るので、安心して預けてほしいと思っている。</p> <p>●小中学校、両方に子どもを迎えにいく場合時間がかかる。実際に引き取ることができるか不安。</p> <p>◎3.11で、車で逃げた人は被害にあった。街場での運転は絶対にしない方がいい。</p> <p>◇職場で子どもを迎えにいけない家はどうしたらいいのか。</p> <p>○自治会ではできないので、市が改善してほしい。</p>	<p>校区全体</p> <p>中学生</p> <p>保育園</p> <p>市</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
③災害時の情報伝達			
<p>●緊急連絡網はフェアキャストだが、使用できない可能性もある。佐野小独自では別の連絡網「マメール」を使う。連絡網 2 本体制。(小学校)</p> <p>◎佐野小校区は建物が密集していない、地盤が固いなど、三島市内では災害に強い地域。</p> <p>◇携帯や電話など連絡方法が遮断された場合が問題。</p> <p>□連絡手段はアマチュア無線などもあるが、新しいものだと衛星携帯電話。これを自治会ごとに持てれば、慌てずに使用できると思う。</p> <p>◆災害時は佐野小に本部を置き各地区から連絡を受ける。電話が使用できないと連絡網が不安。(佐野)</p>	<p>◎避難所である小学校に MC 無線がある。町内の被害状況を市に報告してほしい。</p> <p>◎佐野は中心市街地から遠く情報が届きにくいこと、けが人が出たときの対応などが課題。</p> <p>◎見晴台は学校から遠いこと、家族間の連絡をどうとるか課題。</p> <p>◇衛星電話など市本部との連絡手段が必要。(見晴台)</p> <p>◎衛星携帯電話は各自治会で補助金を活用すれば買えるのではないか。衛星携帯電話も補助の対象になるので、申請してほしい。</p> <p>◆組員に情報を知らせる、伝える方法が課題。(佐野)</p> <p>◆災害時、正しい情報を共有する必要がある。連絡に無線を使用する場合、どこに災害本部を置くのか話を詰めたい。(消防団)</p> <p>◎本部の場所を決め連絡体制を築き、情報が集まるようにし、その情報を基に動くことが大事。</p>	<p>自治体 消防団 市</p>	
<p>◇消防団は無線を利用している。免許所有者もいる。見晴台に 1～2 台置いてもいい。佐野は山があるので使える周波数も多いと思う。(消防団)</p> <p>◆無線の使用に関して、アマチュア免許でどこまでやっているのか疑問。</p>	<p>◎無線運用は団本部に確認してほしい。</p>		
④要援護者の把握・支援			
<p>△○災害時の支援について、市から要介護支援者リストが届いたが、不十分だと思う。(見晴台)</p> <p>◇現役の人は昼間不在。平日の昼間、年寄り子どもしかいない時が一番心配。(見晴台)</p> <p>◇組長もすべては把握してないのではないかと思う。自分の命を自分で守るのは基本だが、守れない人もいる。(佐野)</p> <p>◇市の方に連絡してくれれば、民生委員にも通知が来る。(民生委員)</p> <p>◆災害時、民生委員や役員が地域にいるとは限らない。(民生委員)</p> <p>◆基本は自分の命は自分で守る。まず自分、家族、隣近所の順。自治会の活動(本部の立ち上げ・救援)はそのあと。</p>	<p>△○支援については市と地域の自治会が連携して行うべき。</p> <p>○地域支援包括センターをもっとPR すべき。</p> <p>◇精神的な病の人は、避難できないのではないか。(民生委員)</p> <p>◇小さい子どものいる母子家庭なども網羅して欲しい。(見晴台)</p> <p>◎昼間、そこにいる人達による安否確認・支援体制が必要。</p> <p>◇地図上で要介護の家に印をつけておくのはどうか。</p> <p>□要援護者マップができて、搬送ルートが確立する。</p> <p>◇町内会と民生委員で、ぜひ連携してほしい。</p> <p>◇「向こう三軒両隣」という考えはとても大事。高齢者の事を気にかけてくれるとありがたい。</p> <p>◆日中の災害時、地域にいそうな人達との共通の情報が必要。</p> <p>◆要援護者にも各役員が家族の安否確認後に救援に向かうことを理解してほしい。(見晴台)</p> <p>◆防災委員と要援護者のいる地区を確認し、災害時の班行動を話し合っていきたい。(佐野)</p>	<p>自治会 市</p> <p>自治会 民生委員</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>□要援護者の中には、高齢者、障がい者、若年者など色々な方がいる。それをどう把握するかが課題。</p> <p>□要援護者の救助・搬送はまだ絵に描いた餅。</p> <p>□見晴台では組の段階で把握する方法を模索中。</p> <p>□要援護者は、必ずしも全員が自治会に知らせるわけではない。高齢者二人暮らしでも援助を断る場合がある。要支援を強制するわけにもいかず、なるべく声をかけるようにしている。</p> <p>□見晴台の自治会活動後、組で集まり家族構成の紹介を行なった。「うちは認知症の人がいる」などの話が聞けたので、組単位・少人数だと話しやすいと思う。</p>	<p>□要援護者の具体的な救助方法と救助先について考えると、色々な課題が出てくると思う。(佐野小の車椅子対応のトイレの有無、障がい者のための設備の有無など)</p> <p>□施設側(救助先)と救助される側(要援護者)の情報をセットで整理しておく必要がある。</p> <p>□本人の意思と、客観的な状況を考えた場合の体制づくり、情報をどうすり合わせるか考えなくてはならない。日常の中で情報をすり合わせていく作業が必要になってくるのではないかな。</p> <p>□プライベートな話になるので、気楽に話せるような場、組単位などちょっとした集まりなどで会話をし、情報収集していくといいのではないかな。</p> <p>□見晴台は災害時、陸の孤島になりかねない。1,000世帯あるが、ほとんどの方が現役。日中に災害が発生した場合、残った高齢者の避難方法が心配。</p>		
⑤防災体制の整備・強化			
<p>○現在会議で防災活動について検討している。(見晴台)</p> <p>◆中長期的な自治会・組単位の活動を検討中。組長と防災関係者を1名入れた3~4人が組単位で祭りや防災など様々な活動を行う。自治会はバックアップする形。(見晴台)</p> <p>◆比較的新しい町なので、住民の意思の疎通が難しい。若い世帯には組活動はどうでもいいという人もいる。(見晴台)</p> <p>□佐野は今、新しい人材の育成も行っている。今までは役員が自動的に防災委員になり一年で終わりだった。</p> <p>□生活で培ってきたことが防災につながる。見晴台から見ると、地域に長く住んでいる佐野の方が師匠であり先輩。色々な技術や知識を持っている。</p> <p>□防災意識の向上に一番役立つこととして、防災士の育成がある。県も市も取り組み始めていて、小学生、高校生も対象にしている。</p> <p>□今年、防災士協会では講義を始めた。テーマは「身近でできる防災訓練の内容」。倒壊した建物から抜け出す方法や、ロープやのこぎりなど簡単な道具を使って皆で訓練をする。</p> <p>□実は防災士協会の防災士の有資格者はたくさんいるが、会費を払うのが嫌で防災士をやめてしまう。</p> <p>□各地区に自衛隊や消防など現役の方がいると思う。自分も自衛隊に勤めていた頃、担当地区で防災訓練を何回も行なった。</p>	<p>○災害時などに中学生の力を借りたい。</p> <p>◆町民に、防災・地震対策のPR、意識付けをしていかななくてはならない。</p> <p>□今年から専門の防災委員長・副委員長という体制を作って、少なくとも3年以上やってもらうことにした。連絡体制、要援護者の救助方法など、全てが把握できるようになるのではないかな。(佐野)</p> <p>□第5分団を中心に佐野と見晴台が交流して、お互いに知識を得ることが重要。</p> <p>□各町内で、少なくとも数名は防災士を養成することが重要だと思う。</p> <p>□多くの方が防災士になれば、誰かが不在でも誰かがフォローできる。防災士講座をどうPRするか難しいが、多くの方に受講してほしい。</p> <p>□市で防災士の補助金を出すなど、やめてしまった防災士を復活させるのも一つの方法ではないかな。</p> <p>◎県の防災士講座を受ける場合、市で補助金が出る。市でもより簡便な防災講座を開いているので、参加を募ってほしい。</p> <p>□自衛隊など、防災訓練の指導経験がある方を地域で探し、知識を活用できるといいと思う。消防・自衛隊・警察では持っているものが違う。そういうことも色々分かる。</p>	<p>中学生</p> <p>自治会</p> <p>自治会</p> <p>校区全体</p> <p>自治会</p> <p>市</p> <p>自治会</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>◇校長に依頼し、小学生対象の AED 訓練参加者を募集する。(見晴台)</p> <p>◆今夏、佐野校区の子ども達と保護者で防災キャンプ実施。子ども達 51 人、保護者を含め約 100 名参加。消防団・見晴台自治会・佐野自治会が協力してくれた。(小学校 PTA)</p> <p>□昨年の夏休み、PTA 主催で「体育館宿泊体験」を実施。一泊二日で、子ども・保護者と一緒に体育館に泊まり、自炊した。参加者は 50 名程。高学年は近くのお寺で座禅も体験した。すごく暑くて大変だったと思うが、災害には暑いも寒いもないので、そういう意味では経験できてよかったと思う。参加者は非常に喜んでいて。</p> <p>◆地域の各組織が協力してくれたことは、子ども達にとって大きな経験になった。</p> <p>□小学校校長の立場として、子どもたちに防災意識を高めてほしいと思っている。</p> <p>□伊豆佐野保育園では、1～6 歳まで 61 名の園児を預かっている。日中に災害が発生した時は、保育士もいるしどうにかなる。災害発生後の園開設をどうするか、考えていかないといけない。</p> <p>◎佐野小学校には、太陽光発電と蓄電池の設備を整備する。24 時間電気が使用可能になる。</p>	<p>◆PTA が子どもを持つ世帯と地域の接着剤になるといい。日々の声かけの積み重ねが大事。</p> <p>□今年も夏に「体育館宿泊体験」を開催する。これからも継続していきたい。</p> <p>◆一番大事なことは祭りや会議等を通じた人と人とのつながり。</p> <p>□自分の命は自分で守ることからスタートし、高学年の子は低学年の子をどう守るか考えることなどが、のちのち社会で役立つと思う。</p> <p>□今年 6/24 に佐野小で引き取り訓練を行う。保育園が使用できないという想定で、園児を小学校に連れていき訓練を行なう計画を立てている。初めての試みになる。</p>	<p>自治会 小学校 PTA</p> <p>各団体</p>	<p>⇒◇校長に依頼し、小学生対象の AED 訓練参加者を募集。</p> <p>⇒◆防災キャンプを実施。PTA・消防団・自治会が協力。</p>
<p>◇立地は三島市役所より裾野市役所が近い。長泉町など近隣の市町と情報の共有などやっているのか。</p> <p>◎三島消防庁舎に通信司令センターを二市一町で作り上げ、119 番司令台とデジタル無線を来年の 11 月を目処に整備している。</p> <p>◎今後消防も再編をしていく。この地域では救急車は茶畑から来るようになり、到着時間は早まり救命率はアップすると考えている。活動開始は、28 年の 4 月を予定している。</p>	<p>◎三島市消防本部に 2 市 1 町(三島市、裾野市、長泉町)で別途通信指令本部を作っていくとしている。</p> <p>◎三島ゴルフ、湯郷みしまと防災協定を結び、孤立した場合、そこを使用できるようになった。医療等は各自備蓄するよう働きかけてほしい。</p>	<p>市</p>	<p>⇒◎2 市 1 町で通信司令本部設置を計画。</p>
<p>◎消防団員の不足</p>			
<p>●今までは地元の人間だけで消防団を構成していたが、現在は見晴台出身の団員もいるため、見晴台の防災訓練にも顔を出しやすくなった。(消防団)</p> <p>□第 5 分団は年に数回、見晴台地区で防災訓練として、防災設備や消火器の使用方法などの指導を行なっている。</p> <p>□第 5 分団は現在、定員割れしていて、このままでは休団する可能性がある。団員数は全 23 名だが、普段の行事や訓練に来るのは平均 12 名、月 2 回ある活動に来られるのは 6～8 名。その 6～8 名のうち、10 年以上の方が 6 名いる。来年いってくればいいが、いなければ数えるほどになる。活動人数が限られると、できることもできなくなってしまう。</p> <p>□運動会等ではよく保健委員さんが体育館で血圧測定を行なっている。体育行事は人を集めるイベントが多い。</p>	<p>●新興住宅地でも団員の勧誘を行いたい。いきなり赴いて勧誘するのは難しいので、若い団員が幼少時代の友人を勧誘するなど、友人つながりでの勧誘を行っている。</p> <p>□まず団員確保を優先したい。団員確保の協力をしてもらいたい。</p> <p>□困っているという情報を誰かに伝える場や機会があると、みんなでどうにか協力しようという話になるのでは。</p> <p>□消防団には、防災訓練やどんど焼にも来てもらっている。その場を使って、消防団の危機を住民に伝えるといいのではないかと。</p>		

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>□子どもが来れば両親・祖父母も参加するので、大人数になる。そういう場を活用して、消防団にポンプ車の展示をしてもらっている。</p>	<p>□消防団のPRには、校区祭や祭りなど、子どもと若い親が集まっている中で、AED講習や簡単な訓練の見せ場を作るといい。「イベント時に少し訓練をやらせてもらえないか」と連絡してもらえれば、皆に見せるチャンスになる。</p>		
<p>2. 地域の連携</p>			
<p>①地域のきずなづくり</p>			
<p>●中学校、PTA、地域との連携を強化するため、北上中学校区の地域連絡会を立ち上げた。</p> <p>●お祭り、運動会に約 2,000 人参加。自治会加入率は市でトップ。(見晴台)</p> <p>○役員になると、祭りの手伝いなどが負担になって辞めてしまう人が多い。(佐野)</p> <p>●普段からコミュニケーションは取れているが、新しく住み始めた住人とは、あまり繋がりが無い。</p> <p>●お祭りなど住民で協力して料理をつくる機会(法事など)は小地区ごとで行われている。避難所での炊き出しの訓練になり、顔の見える関係にもつながる。(佐野)</p> <p>●□佐野、見晴台はお互いにいい関係を求めて交流しようとしている。行事を合同で開催すれば、他地域の住民と顔見知りになれる。</p> <p>□見晴台の夏祭りに招待されて、佐野から参加している。</p> <p>●PTA と自治会のつながりはできていない。家庭と地域が連携しないと健全な教育はできない。佐野小校区は町内会が 2 つなので、話がしやすく恵まれている。(佐野小 PTA)</p> <p>○行方不明者が出たが発見された。(佐野)</p> <p>◇◆見晴台には「やじうまクラブ」があり熱心に活動している。ボランティアで登録は 15 名、現役 8 名。代表は自治会役員でメンバーは自治会 OB。挨拶運動や、民生委員と一緒に一人暮らしの高齢者や高齢世帯を訪問するなど、見守り活動実施。</p>	<p>●中学校区の地域連絡会を地域のきずなづくりに活かしたい。</p> <p>●他地域からの寄せ集めのような集団で、近所付き合いをしたくない人も多いのが課題。</p> <p>●行事で中学生の力を借りたい。</p> <p>●小中学生が集う行事を考えたい。</p> <p>○自治会(役員)に若い世代を引き入れていきたい。</p> <p>●今後も見晴台と一緒に地域行事を行っていききたい。</p> <p>□佐野と見晴台は少し離れているので、何か子どもや老人と一緒にいる機会があるといい。</p> <p>□今は役員だけ行く状態だが、今後佐野の親子が見晴台の祭りに参加するような状態になっていくと思う。お互いに参加したらジュースがもらえるなど、交流を仕掛けていけば、楽しくなっているのではないかな。</p> <p>●学校だけでなく自治会ともつながりをつくらないと、防犯対策に対しても協力が得られない。地域とのつながりを子どもを通じてつくりたい。(佐野小 PTA)</p> <p>○対応に苦労したので、マニュアルを自治会長に配布しておきたい。</p>	<p>校区全体</p> <p>中学生 小学生</p> <p>自治会</p> <p>自治会 PTA</p>	<p>⇒●中学校、PTA、地域との連携を強化するため、北上中学校区の地域連絡会を設立。</p> <p>⇒●□佐野と見晴台は別組織として行動していたが、まとまってきた。</p> <p>⇒◇◆見晴台には「やじうまクラブ」があり、挨拶運動や高齢者の見守り活動実施。</p>
<p>②子ども会・老人会</p>			
<p>○子ども会の数が減っている。(環境美化推進委員)</p> <p>●子ども会との連携が取れていない。(体育振興会)</p> <p>□佐野見晴台子ども会では、自治会の方と一緒に子どもたちと苗を植えて収穫する体験</p>	<p>○自治会が子ども会を守っていくべき。</p> <p>●子どもが多い地区なので、子ども会とのつながりを持つことで親とも連携していきたい。</p> <p>○子ども会と老人会と一緒に活動できるようにしていきたい。(見晴台)</p> <p>□自治会開催の子どもの農園体験などの活動が、子ども会役員だけではなくもつ</p>	<p>自治会 子ども会 体振会</p> <p>老人会</p> <p>自治会 子ども会</p>	

現況	課題	担い手	結果・実績
<p>(農園体験)を行なっている。自治会の方も来ているので、世代交流も図れるし、子どもも楽しんでいたが、どうしても出席するのが役員とその子どもばかりになってしまっている。</p>	<p>とたくさんの方に広がり、みんなで楽しめればいいと思う。</p>		
<p>○佐野には現在老人会がない。世代交代ができずになくなってしまった。</p> <p>○女性が参加する団体は多い。(北上女性学級)</p>	<p>○老人会復活に向けて、検討していきたい。</p> <p>○老人会を再び作って、今ある婦人会と協力して花の世話をしてもらおう体制を作りたい。(佐野)</p> <p>○定年後の男性も社会に出る場があれば良いと思う。</p>	<p>老人会 婦人会</p>	
③スポーツを通じた取り組み			
<p>○ソフトボールの案内が来るが、佐野で活発にできるかは疑問。(佐野)</p> <p>○市は体育に力を入れているが、校区祭の景品を買うための市からの交付金は減っている。(体育振興会)</p> <p>○6月に春の遠足、秋には秋の遠足を体育振興会主催で行っている。</p> <p>●根元に足りないのはきずな。</p> <p>◇メンバー約30名。何か指示された場合にリーダーシップをとって行動できるよう人材育成をしている。メンバーが企画から考え、皆をまとめることを進めている。(体育振興会)</p>	<p>○スポーツ活動については体育振興会の力で盛り上げてほしい。</p> <p>○防災訓練と地域運動会を同じ日に開催すればいいのでは。</p> <p>○市や自治会からの補助をお願いしたい。</p> <p>○数年前からやり始めたが、まだPR不足。広報活動が必要。</p> <p>●体育行事で活躍している人を防災にも活かしたい。(佐野)</p> <p>●課題は地域のつながりをどうやって広げていくか。大きなイベントを開催し、自治会と連携するよう話していく必要がある。</p> <p>●遠足や運動会など住民が参加できるような行事を考えたい。</p>	<p>体振会</p> <p>自治会</p>	
④花・環境美化			
<p>○佐野小の近くにブルーベリーを植える活動をしている。(佐野)</p> <p>○昨年は小学生、中学生とPTAがミックス古紙の説明会に参加してくれた。(環境美化推進委員)</p> <p>▲もっとゴミ問題に理解を示して、皆で横と縦のつながりを広げれば、こういう会議もだんだん広がってくるだろうし、ごみの資源化にもつながると思う。</p>	<p>○上手くいっておらず、補助金も打ち切られてしまったが、活動を続けていきたい。</p> <p>○バス停あたりに花を置き、桜の木を植えたい。</p> <p>○エコキャップをやろうという話を出してくれた。小学生、中学生の意見をどんどん取り入れていきたい。</p>	<p>環美推員</p>	